

まさかのときの

避難場所

突如として襲い掛かる地震や洪水などの自然災害。こうした大規模な災害によって、自宅や職場などからの避難を余儀なくされた場合、皆さんが一時的に身を寄せることになるのが小中学校や区体育館などの避難場所です。今回の特集では、まさかのときのよりどころ、“避難場所”について紹介します。

詳細 総務企画課 地域安全担当 ☎ 681-2425

札幌市

では、東日本大震災における避難場所の寒さや物資不足などの課題を受け、平成 25 年 3 月に**札幌市避難場所基本計画**を策定しました。この基本計画は、“避難場所”の環境整備や災害用備蓄物資の配置方法など、備えるべき機能目標を設定し、その整備方針を定めたものです。市は今後、計画の実現に向けて実施プランを定め、避難場所の整備を進めていきます。

【避難場所の分類】

札幌市避難場所基本計画では、住民の安全を確保する場所として、被災状況に応じた避難場所を定めています。収容避難場所は、限られた人員・資源を活用し効果的に避難場所を運営するため、新たに**基幹避難所**と**地域避難所**に区分しました。



収容避難場所

災害等により、自宅で生活できない、または安全を確保できない人が、身体や生命を守るための屋内施設。下の 2 種類に区分される。

※1 基幹 避難所

最大想定避難者数を収容する地域の拠点となる施設で、あらかじめ計画的に物資が備蓄・管理される。

例 市立小中学校、区体育館、北海道工業大学体育館

地域 避難所

一時的に避難者を収容する施設で、一定期間経過後は基幹避難所へ統合される。

例 施設管理者の承諾を得た民間施設や国・道有施設など

一時避難場所

災害により避難が必要な場合に、地域で一旦集合したり、一時的に退避して身の安全を確保したりする場所。

例 全ての公園、市立小中学校のグラウンドなど

広域避難場所

大規模な火災が発生した場合、炎や煙から安全を確保する場所。

例 前田森林公園、稲積公園、運転免許試験場、北海道工業大学グラウンド

※1 今まで市立小中学校は体育館のみを避難場所として指定していましたが、今後、新たに一部の教室も指定していきます。

【応急備蓄物資整備・配置】

今までは特定の小中学校のみでしたが、どの被害地域にも速やかに供給されるよう、今後、全ての小中学校^{※2}に備蓄物資を配置していきます。※2 小学校と中学校が隣接している場合などは、一方のみに配置することもあります。

食料対策

災害直後の市全体の最大食料需要量である約 13.3 万人に対し、1人当たり 2 食分（約 26.6 万食）を備蓄する。乳幼児用粉ミルクも用意し、食品アレルギーにも配慮する。

照明対策

災害発生直後の停電対策として、ろうそくランタン、ラジオ付き手回しライトを備蓄する。発電機や投光器も用意する。

トイレ対策

災害発生直後の断水対策として、簡易便座・排便収納袋・便凝固剤を備蓄する。乳幼児や高齢者のため、紙おむつも備蓄する。

寒さ対策

寝袋・毛布を最大想定避難者（市全体で約 11 万人）1 人当たり 1 組配給可能な体制を整備する。また、採暖用に移動式灯油ストーブを基幹避難所 1 カ所当たり 2 台備蓄する。

家庭内での 備えも忘れずに

災害直後、道路状況などによっては、被災者全員に飲料水、食料、必需品が供給できない可能性もあります。最低でも 3 日分の食料や水などを備蓄しておきましょう。

非常持ち出し袋に入れておきましょう

非常持ち出し品リスト

- ☐ 食料・飲料水（3 日分）
- ☐ 携帯用ラジオ
- ☐ 下着 ☐ 軍手
- ☐ 懐中電灯 ☐ 常用の薬
- ☐ 救急セット
- ☐ 現金・貴重品
- ☐ 乳幼児用品
- ☐ 予備メガネ ☐ 防寒具



▲寝袋とクッション材を一体化した札幌式高規格寝袋

寒さの厳しい冬季間に災害が発生し、停電などで暖房器具が使えなくなった場合でも寒さをしのげるよう、準備をしています。